

## 平成26年度第一回森林環境保全基金運営委員会 議事録

開催日時 平成26年5月26日(月) 13時30分～15時30分  
開催場所 高知共済会館 3階「藤」  
参加者 (委員)  
根小田渡委員長、堀澤栄副委員長、有光尚委員、片岡桂子委員、  
川村純史委員、中井勇介委員、林須賀委員、山中國保委員  
(事務局：高知県林業環境政策課)  
上岡課長、井澤課長補佐(木の文化担当)、福田主幹、中越技師  
(事業担当課)  
鳥獣対策課：門脇チーフ、宮崎主幹  
木材増産推進課：吉門主任、中澤技師  
木材利用推進課：大野チーフ、大家主幹  
環境共生課：日田チーフ、久保主幹  
高等学校課：國廣指導主事、宮川主幹  
生涯学習課：瀬沼チーフ、川上主任社会教育主事  
欠 席  
門田芳穂委員、時久恵子委員

1. 林業環境政策課長挨拶

2. 議事

### 【1】平成25年度森林環境税活用事業の実績報告について

#### ～公益林保全整備事業・みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)～

(吉門主任) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

県産材に対する需要の見通しがあり、山から木材をどう供給するかを考えていくことになる。よく聞くのは、法令絡みや所有者が県外に出られているなどで、山林所有者が誰なのかを確認するのが困難になり、集約化を妨げているという問題である。

(吉門主任)

確かに、集約化には森林の境界の明確化という問題が発生する。国の補助事業を採択する場合、集約化は概ね必須となっており、国の森林地域活動支援交付金を活用していただき、積極的に境界の明確化をしている。又、県単事業では、集約化できない部分を助成している。境界の明確化は問題があるところだと思う。

(根小田委員長)

県だけの問題でなく、国全体の問題だと思う。

(山中委員)

木材需要は、若干上向きだと思う。私が心配しているのは、国有林の場合は植林しているが、民有林の場合は植林をしていないこと。長期的に見て、新しく植えていくことは大事なことではないか。県下の状況はどのようになっているか。

(吉門主任)

植栽の状況は、今は100haを切るぐらいの状況が続いている。植栽面積が減っている中、森林を回していくことや木材増産に繋がることの一施策として再造林に対して、国の補助に、県が22%の嵩上げ支援を行い、実質90%補助している。事業名は森林資源再生支援事業で『森林を再生していこう』というもの。再造林だけでなく、付帯施設のシカ被害を防止するネットなどの鳥獣害防止施設も嵩上げ支援を行っている。平成24年度から支援を行っているところだが、平成26年度は11市町村が残りの10%を嵩上げし、実質森林所有者の負担額はゼロで植栽ができるところもある。活用を促すとともに、積極的に植栽していただけるよう指導していきたい。

### ～集落ぐるみ捕獲推進事業経費(鳥獣対策課)～

(宮崎主幹) 資料に基づき説明。

(川村委員)

被害額は、現在集計中ということだが、評価はどうしたらよいか。大体の数字も分からないのか。

(門脇チーフ)

市町村を通じて、被害額の集計を提出してもらうことになっているが、まだ、被害額の集計の提出がない市町村もある。提出を受けた後、数字の単位の間違いなどを確認する。例年だと被害額の集計がまとまるのが6月半ばである。捕獲頭数は、毎年増しており、去

年は 15,845 頭だったのが、今年の上積値は 19,500 頭。約 3 千頭上積みされた。少しだがワナ配布の成果があったと考えている。

(山中委員)

ワナの配布は完了したのか。

(門脇チーフ)

完了している。初年度ということもあり、開発に時間がかかり、配布は 11 月から始まる狩猟期から 12 月にかけて実施した。かけ方を教えながら配布したため、実質狩猟期間の四ヶ月のうち、三ヶ月弱はワナをかけることができた。これからの狩猟期以外の期間にも有害駆除制度を活用していただきながら、頭数の上積みを図っていきたいと考えている。

(根小田委員長)

先ほどの 19,500 頭は、猟師の方が取られた数なのか。

(門脇チーフ)

市町村の駆除と狩猟期の捕獲と両方合わせた数になる。

(根小田委員長)

成果は今後ということだ。

### ～希少野生動植物保護対策事業(環境共生課)～

(久保主幹) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

希少野生植物は、高知県の全域にあると思う。シカ食害の被害が特に大きいのは高知県中部か。

(久保主幹)

中部、西部が多い。

(根小田委員長)

その現状からみでの対策で、なんとか希少野生植物を絶滅させずに、守るために重点地域を設けているということか。やられているところは限られているのか。

(久保主幹)

やられているところは限られている。何も残らず、災害跡のようになっている。

(根小田委員長)

絶望的という種はあるのか。

(日田チーフ)

昨年度の実績をみると、対象となる種が43種あり、そのうち38種は囲ったところで、生育が確認された。効果としてはあがっている。

(堀澤副委員長)

植生回復状況が中間報告で77%、実績で70%となっているがなぜか。

(久保主幹)

落石などにより、柵が壊れてシカの侵入を許したところ、また、中間の時は生えていたと報告を受けていたが、実績の時には実際は生えていなかったこともあった。

(山中委員)

私は時々山を回っているので、植林のネットを見ることもある。破れて、シカは入っているところもあるようだ。管理や補修はどうなっているのか。

(日田チーフ)

モニタリング調査の際に、柵の設置状況の確認し、一定傷んでいるところは補修をしている。昨年、香美市で、シカが侵入して中の植物が食べられた。落石や倒木があり、柵が破損していたところもあった。モニタリング調査で確認し、補修をするようにしている。

### ～環境学習推進事業(生涯学習課)～

(瀬沼チーフ) 資料に基づき説明。

(山中委員)

子ども達にとっては大事な体験授業になると思うし、やり方によれば非常に有効だと思う。今の学校現場はよく分からないが、自然体験をしたことや、教職員の理解度や教員が実際に指導したケースは、まだ限定的だと思う。今の段階では、この取り組みが始まって、

まだそんなに経っていない。養成した指導者と体験した学校や地域がネットワークを強め、成果を少しでも波及していくことができれば、更に効果が上がっていくのではないかと思う。学校現場では難しいところもあるとは思うが。

(瀬沼チーフ)

指導者養成研修の一つは、「こうち自然学校連絡会」という様々な団体が集まって設立した任意団体に委託している。そうすることにより、指導者養成研修を受講された方と様々な団体の出会いの場を作っている。

参加者と講師、参加者同士の交流も是非、行っていただくことをお願いしている。生涯学習課においても、人と人とのつながりによって、一プラス一が十にも二十にもなっていくことが必要だと考えている。色々な民間団体とも情報提供し、アドバイスもいただきながら養成した方達に活動していただきやすい形を探している。

(林委員)

環境学習プログラムは非常に良いと思う。「イタドリを食べてみよう」など高知県らしいことが載っているのも、ありがたいと思う。意識の高い方が取り組まれるボランティアも良いが、このプログラムは小学生から中学生の全員が活動できる。高知らしさ、高知を好きになる切り口をもっと作っていただきたい。

(堀澤副委員長)

私も娘が小学生になり、子ども達のグラウンドがあまりないことに気が付いた。今、プログラムを見せていただき、なかなかいいものがあったと思った。これからも使って高知県の環境教育を進めてもらいたいと思う。

(瀬沼チーフ)

学校に使っていただけるよう、色々なところで啓発を行っていきたい。

### ～森林環境保全事業(高等学校課)～

(國廣指導主事) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

高校生森林環境税理解事業で予定より実績の数が少ないのはなぜか。

(國廣指導主事)

四万十高校で予定していた事業などが雨や天候の関係で実施できず、回数が減となった。

(根小田委員長)

参加人数には変わらないのか。

(宮川主幹)

参加人数はほとんど変わらない。

(根小田委員長)

県内の求人数は増えたのか。

(國廣指導主事)

求人数が増えたかは、数字を持っていないので分からない。

(林業環境政策課 福田主幹)

求人数は、調べて皆さんにお知らせする。

### ～山の学習総合支援事業(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(片岡委員)

市町村が固定化しているが、取り組まれていない市町村は、都市部が多いか、田舎の方が多いのか。

(福田主幹)

市部は取り組まれているところが多い。比較的、町村部の方が、取り組みが弱い。町村によっては、小学校や中学校が1校ずつしかないところもあり、その学校が手を挙げなければ、その町村は取り組みがないことになる。学校の数はかなり減っているのも原因かもしれない。

(山中委員)

全国的に表彰されている学校もある。固定化されたこともなきにしもあらずという感じもする。

(福田主幹)

長く取り組まれているので固定化となる。やはり学校数も増えて欲しい。本当は全ての学校で取り組んでいただきたいが、それは難しいと思う。26年度は増えそうなのでうれしく思う。

(根小田委員長)

47校中は、高知市は何校か。

(福田主幹)

高知市は小学校と中学校併せて9校で、2008人が取り組んだ。

(根小田委員長)

高知県全体で何校あるのか。

(福田主幹)

数字を持ち合わせていない。調べて、次回にはお知らせしたい。

(井澤補佐)

去年と今年、圏域ごとの教育委員会の会に参加し、事業説明をした。26年度の要望額は約1,560万円。360万円ほど予算をオーバーした。校数も徐々に増えている。全体の予算も限られているので、どう対応するかが今後の課題である。

#### ～森づくりへの理解と参加を促す広報事業(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

質疑なし。

#### ～こうち山の日推進事業(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(堀澤副委員長)

多くの方がイベントに参加していただき、良かったと思う。「こうち山の日」という言葉

が浸透していないと思う。併せて周知を図っていただきたい。

(福田主幹)

こうち山の日も全国山の日と併せて周知を図っていきたい。ただ、こうち山の日の制定趣旨の活動は、かなり広がってきていると思っている。こうち山の日の周知はまだできていない面もあるが、趣旨の求める活動をしている方は増えてきていると思っている。

(林委員)

こうち山の日推進事業費補助金で、事業主体を集めた事業発表会・意見交換会とあるが、事業主体とは誰を指すのか。

(福田主幹)

こうち山の日推進事業補助金を使っている実施団体である。事業発表会・意見交換会は3月15日に開催している。

#### ～森林保全ボランティア活動推進事業(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

この事業は、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金と関係があるのか。

(福田主幹)

国の事業の方が、1ha当たりの単価が高く16万円。県の方は実質6万円。そのため、国の事業を使われる団体が多かった。

(根小田委員長)

間伐の活動をやっている実態はあるが、この環境税を使った事業は使っていないということか。

(福田主幹)

団体数は増えており、国の多面的交付金が始まったこともあり、間伐の活動は広がってきている。

(根小田委員長)



国の多面的交付金は、平成 28 年度まで継続されるので、この事業は止めておこうということか。

(福田主幹)

国の事業があるので、休止させていただきたい。国の事業が多く団体に活用されるよう、高知県森と緑の会も積極的に説明会に開催しているので、県も支援している。

#### ～運営委員会開催費(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

質疑なし。

#### ～木の香るまちづくり推進事務(木材産業課)～

(大野チーフ) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

予算の 85%となったのは、入札減によってか。

(大野チーフ)

主は入札減であるが、設計変更も金額が減った要因でもある。

(根小田委員長)

見積を取っているのか。

(大野チーフ)

三社程度から見積を取り、その中の安いところと契約する事例が多い。

(根小田委員長)

箇所ごとに実施しているのか。例えば、学校ごとに実施するのか。

(大野チーフ)

複数の学校があれば、まとめて実施する場合もあり、それ以外では、施設単位でやって

いる。

(山中委員)

54箇所では実施している。学校は構わないが、公共的空間整備や屋外景観施設等整備については、委員会に参考までに資料として提供してもらいたい。

(大野チーフ)

事務局を通じて、学校も含めて導入した施設の一覧をお渡しする。委員の皆さんにもアピールしていただきたい。

## 【2】平成26年度森林環境税活用事業の概要について

(福田主幹) 資料に基づき説明。

質疑なし。

## 【3】その他

(井澤補佐) 資料に基づき説明。

(川村委員)

平成25年度森林環境税活用事業評価シートの提出〆切が6月15日とのことだが、シカの実績がいつ示されるのか教えていただきたい。

(上岡課長)

鳥獣対策課に確認し、皆さんに後日連絡する。

(山中委員)

鳥獣対策課は捕獲頭数の見込みも言ったし、取り組みも大体分かった。評価できないことはないと思う。だが、正確な数値が分かればありがたい。

(片岡委員)

平成26年度に実施しない森林保全ボランティア活動推進事業も評価しなくてよいか。

(福田主幹)

評価しなくてもよい。

(根小田委員長)

ほか、特になければ、今日の委員会を終了する。

以上で閉会